

第5回会津若松市総合計画審議会（第2部会）の主な意見

部 会：第2部会 しごとづくり

日 時：平成28年5月18日（水） 10:00-12:00

場 所：ホテルニューパレス

出席者数：審議会委員 6名、オブザーバー 1名

No.	項目	委員からの主な意見
1	「政策分野10 食料・農業・農村」 のいずれかの施策	農業と福祉が連携した「農福連携」の取組みについては、位置付けられているか。
2	「政策分野10 食料・農業・農村」 「施策1.食料の安定供給」	依然として農作物の安全性に対する風評被害は継続している。 また、福島県全体で捉えた際にも、風評克服で会津が果たす役割は大きい。 韓国・台湾でも福島県産の食品は輸入禁止であり、世界を見据えた取組みが必要。 政策・施策の中で、本市の農作物に対する風評対策を行っていくことを、明確に示す必要があるのではないか。
3	「政策分野10 食料・農業・農村」 「施策3.農業生産基盤の整備」	農業生産基盤の整備により作業の効率化が進むが、整備やその後の維持管理が農家の負担となる。 農家にとって過度の負担が生じないような支援策等はあるのか。
4	「政策分野10 食料・農業・農村」 「目指す姿」	農業の後継者不足の最大の要因は、農業では稼げないからではないか。 目指す姿の中に「儲かる農業」という表現を加えることはできないか。
5	「政策分野10 食料・農業・農村」 「施策4.農村の振興」	農村において、用水路や農道の草刈などの維持管理には人手が必要であり、集落に住む担い手だけでは維持管理の作業が困難になっており、農業の担い手だけで農村は維持できない。 これらの対策を示す必要があるのではないか。
6	「政策分野11 森林・林業」 「施策 1.林業の振興」	林業が進まない理由の一つに境界画定が困難なことが挙げられる。 市内のある地区では山林所有者があつまり財産管理団体を設立し、台帳面積で按分することで、山林の利活用を進めている。 このような取組を市が主導すべきではないか。
7	「政策分野11 森林・林業」 「施策 2.森林資源の需要拡大」	林業分野では、木材やチップの加工設備に対する支援はあるが、需要拡大に対する取組み、支援が弱い。 森林材の需要をしっかりと創っていく取組みがないと、林業を継続できないため、需要を創出が大切ではないか。

No.	項目	委員からの主な意見
8	「政策分野11 森林・林業」 「施策2. 森林資源の需要拡大」	国は、CLTの利活用に向けて取組んでいく考えであると把握しているが、市はどのように取組んでいるのか。
9	「政策分野11 森林・林業」 「施策2. 森林資源の需要拡大」	汚染材対策はどのようになっているのか。
10	「政策分野11 森林・林業」 「施策2. 森林資源の需要拡大」	木のおもちゃの普及を位置付けることはできないか。
11	「政策分野11 森林・林業」 「施策2. 森林資源の需要拡大」	森林資源の需要として、CLTやバイオマス発電所の燃料があげられているが、本来、建築材としての利用が主であるべきであり、そのための取り組みを位置づける必要があるのではないかと。
12	「政策分野12 中小企業」 「着眼点」	地域外の販路拡大を図ることが重要とのことだが、会津地域の市町村間で競合してしまっただけでは意味がない。販路拡大はどのように取組んでいるのか。
13	「政策分野12 中小企業」 「着眼点」	販路拡大については、「地域外」とあるが、「国外」を目指すべきではないかと。
14	「政策分野12 中小企業」 「着眼点」	確かに震災により人件費が増加しているが、もともと県内の給与水準が低かったことからすれば、妥当な水準になっただけではないかと。
15	「政策分野13 企業立地・産業創出」 「施策13.ベンチャーの創出」	ここで示しているベンチャーはITベンチャーのみか。間口を広く創業したいと思っている方を支援することが必要ではないかと。
16	「政策分野13 企業立地・産業創出」 「施策13.ベンチャーの創出」	ベンチャーの創出においては、まずは大学や専門学校におけるベンチャースピリッツの醸成が重要。また、廃校活用のインキュベーターなど、創業し始めた方を支援する取り組みが必要ではないかと。
17	「政策分野14 雇用・労働」 「着眼点」	中小企業の多くは福利厚生が難しいとあるが、現に、勤労者の互助会があるので、それを踏まえた記述になっているべきではないかと。また、「難しい」というような表現ではなく、やるべきことについて「必要がある」という表現が適切ではないかと。
18	「政策分野14 雇用・労働」 「着眼点」	労働者確保の視点の中においては、女性や高齢者以外に、外国人労働者も必要と考えている。この対策はあるのか。

No.	項目	委員からの主な意見
19	「政策分野14 雇用・労働」 「施策1. 雇用環境の充実」	「ワークライフバランス」とあるが、生活の上に仕事があるのだから、「ライフワークバランス」が適切ではないか。
20	「政策分野15 観光」 「着眼点」	風評により修学旅行客は大きく減少しており、しっかりと修学旅行客を回復させなければならないことを記述すべき。
21	「政策分野15 観光」 いずれかの施策	観光については、サムライシティなど具体的なテーマを定め、3か年程度の具体的な行動と目標を計画に位置付けるべきではないか。 例として、佐野市では、ムスリム（イスラム教徒）向けにハラル餃子を提供し、多くの外国人が訪れているらしい。 本市であれば、シニアに優しい観光地を目指すことで、シニア層の取り込みを図ってはどうか。
22	「政策分野15 観光」 いずれかの施策	観光の分野において、民間事業者の取組みを支援するような取組みはないのか。
23	「政策分野15 観光」 いずれかの施策	ICTを活用した民間の取組みへの支援なども必要だと考える。
24	「政策分野15 観光」 いずれかの施策	サムライシティという商標は外国人への訴求力が高いと考えており、イメージづくりや体験の提供ができないか。 具体的には、着物や鎧を貸し出してまちなか散策できたり、切腹体験など。
25	「政策分野15 観光」 いずれかの施策	大型バス用の駐車場確保が必要ではないか。 鶴ヶ城会館の駐車場が有料化され、修学旅行などの大型バスの駐車場がなくなっている。 課題はあると思うが、鶴ヶ城三の丸の活用などにより駐車場を確保しないと、修学旅行客が大きく減少してしまう危険性がある。
26	「政策分野15 観光」	平日は首都圏の自宅で生活し、週末を地方などで過ごすスタイルがあると聞いている。 このようなスタイルの方を増やすことで観光誘客を図れないのか。
27	「政策分野15 観光」 「施策1. 地域資源を活用した観光振興」	蒔絵体験などの体験観光が重要ではないか。
28	「政策分野15 観光」 「目指す姿」	市民が観光客に対して本市の魅力を伝えることができるかどうかは、どれだけ市を愛しているによる。

No.	項目	委員からの主な意見
29	「政策分野15 観光」	飯盛山での駐車場やおみやげ物店への呼び込みをなくして欲しい。
30	「政策分野15 観光」	現在の年間300万人の観光客のうち、0.1%でも本市に移住してくれるようになれば、年間3,000人の人口増加に繋がる。移住したくなるような景観づくりや受入体制づくりが重要ではないか。
31	「政策分野16 中心市街地・商業地域」いずれかの施策	本市には、彦根や長浜のような、全市が統一的な景観形成がないが、こういったものを総合計画で示すことはできないのか。七日町からお城まで景観の連続性を作り出すことが重要。神明通りの南の地域は勿体なかった。 喜多方は市が甲斐本店などの蔵の保存に乗り出している。磐梯町は、地域における歴史的風致を維持向上する「歴史まちづくり」に取り組んでおり、恵日寺の門前町としての風致を創出しようとしている。本市はスマートシティを目指しているため、蔵のまちづくりのようなものはない。
32	「政策分野16 中心市街地・商業地域」いずれかの施策	一般的に、中心市街地の商店が利用されない理由の一つに無料駐車場がないことがある。 中心市街地に無料駐車場を確保するか、デマンドタクシーなど郊外からの公共交通手段を確保するなどの取り組みが必要ではないか。
33	「政策分野16 中心市街地・商業地域」いずれかの施策	100万人の交流人口があれば、3万人の定住人口と等しい経済効果が生まれると聞いており、七日町では誘客100万人を目指している。 中心市街地の活性化には、交流人口増加が必要。
34	「政策分野16 中心市街地・商業地域」 「着眼点」	市内の郊外と中心部を比較して、人口減少や高齢化が進んでいることを論じているが、そもそも会津地域全体、日本全体が高齢化・人口減少しており、そこから人を呼び込まねばならない。 市内のみの小さな着眼点でよいのか。